林 純薬工業株式会社
HAYASHI PURE CHEMICAL IND.,LTD.

作成日　2010/11/24
改訂日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	アジピン酸ジ(2-エチルヘキシル)
製品コード	99052579
整理番号	A9-07-1
会社名	林 純薬工業株式会社
住所	大阪府大阪市中央区内平野町3丁目2番12号
担当部門	マーケティング・商品開発部　商品企画グループ
電話番号	06-6910-7290
緊急連絡電話番号	06-6910-7290
FAX番号	06-6910-7340
URL	http://www.hpc-j.co.jp
E-mail	mpd@hpc-j.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	試薬

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 区分外
	自然発火性液体 区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分外
	急性毒性(経皮) 区分外
	皮膚腐食性／刺激性 区分3
	生殖細胞変異原性 区分外
	発がん性 区分外
	生殖毒性 区分2
環境に対する有害性	水生環境有害性物質・急性 区分外
	水生環境有害性物質・慢性 区分外
	上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

シンボル

注意喚起語	危険
危険有害性情報	H316 軽度の皮膚刺激
	H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
注意書き	
安全対策	使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)
	指定された個人用保護具を使用すること。(P281)
救急措置	ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)
	皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313)
保管	施錠して保管すること。(P405)
廃棄	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別　単一製品

一般名　アジピン酸ジオクチル、アジピン酸ビス(２－エチルヘキシル)

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
アジピン酸ビス(2－エチルヘキシル)	99%以上	$(CH_2CH_2COOC_8H_{17})_2$	2-861	2-2562	103-23-1

分類に寄与する不純物及び安定化添加物　情報なし

4. 応急措置

吸入した場合
空気の新鮮な場所に移し、安楽に待機させ、窮屈な衣服部分を緩めてやる。
医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合
汚染した衣服、靴、靴下を脱がせ遠ざける。接触した身体部位を水で十分洗う。
水と石鹸で洗うこと。
医師の手当、診断を受けること。

目に入った場合
直ちに清浄な流水で15分以上洗眼する。
医師の手当、診断を受けること。

飲み込んだ場合
直ちに多量の水を飲ませる。
医師の手当、診断を受けること。

5. 火災時の措置

消火剤　粉末消火薬剤,二酸化炭素,泡消火薬剤,乾燥砂

使ってはならない消火剤　棒状注水

特有の危険有害性　火災によって刺激性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。

消火を行う者の保護　消火作業の際は、空気呼吸器を含め適切な防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業を行わない。
密閉された場所は換気する。

環境に対する注意事項　本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水溝及び排水系及び大量の水に流入することを防止する。

回収・中和
不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策
吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。
長時間または反復の暴露を避ける。
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。
作業後は容器を密栓し、うがい手洗いを十分にする。

局所排気・全体換気　取り扱う場合は局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱う。

安全取扱い注意事項
火気注意。
眼、皮膚、衣服との接触を避ける。
取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
その他の消防法等の関連法規の定めるところに従い保管する。

保管条件　直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

容器包装材料　遮光した気密容器

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度

	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH
アジピン酸ビス(2ーエチルヘキシル)	設定されていない		

設備対策　取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸器の保護具　有機ガス用防毒マスク、自給式呼吸器(火災時)。

手の保護具　不浸透性保護手袋

眼の保護具　保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具　不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、保護長靴。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状　粘稠性液体

色　無色透明

臭い　軽い芳香

pH　データなし

融点／凝固点　-67.8℃

沸点、初留点及び沸騰範囲　335℃(760mmHg),224℃(10mmHg)

引火点　205℃

蒸気圧　1～2.5mmHg(85～200℃)

蒸気密度　12.8(空気＝1)

蒸発速度(酢酸ブチル＝1)　情報なし

比重(密度)　0.925g/cm^3(4/20℃)

オクタノール／水分配係数　6.114

溶解性　水に不溶。エタノール、ジエチルエーテル等に可溶。

10. 安定性及び反応性

安定性　常温で安定。

危険有害反応可能性　引火燃焼する。

避けるべき条件　日光、高温、加熱。

危険有害な分解生成物　一酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性:経口　ラットを用いた経口投与試験LD50　9,100 mg/kg (環境省リスク評価第2巻 (2003))、25,000 mg/kg (IARC 77 (2000))のうち低い値LD50＝9,100 mg/kg から区分外とした。

急性毒性:経皮　ウサギを用いた経皮投与試験のLD50 14,752 mg/kg (環境省リスク評価第2巻 (2003)) から区分外とした。

急性毒性:吸入　吸入(気体):GHSの定義による液体のため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。

吸入(蒸気):データなし

吸入(粉じん):データなし

吸入(ミスト):データなし

皮膚腐食性／刺激性　CERIハザードデータ集97-12 (1998) のウサギを用いた皮膚一次刺激性試験結果、「わずかな紅斑と72時間後の消失」から、区分3であり、環境省リスク評価第2巻 (2003) では「動物試験で、皮膚に刺戟性なし」で区分対象外であるが、安全サイドから区分3とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　環境省リスク評価第2巻 (2003)本文にて、「動物実験では眼や皮膚への刺激性はない。」という記述があるが、区分外とするにはデータ不足のため、分類できないとした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:データーなし 皮膚感作性:　CERIハザードデータ集　97-12 (1998)、環境省リスク評価第2巻 (2003) のモルモットを用いた皮膚感作性試験結果結果では、皮膚感作性が認められなかったが試験数が少なく詳細条件不明であり、また疫学結果も無いため、分類できないとした。
生殖細胞変異原性	IARC 29 (1982)、IARC 77 (2000)の記述から、生殖細胞in vivo経世代試験(優性致死試験)で弱い陽性であるが、9,220 mg/kgという現在のガイドラインの限界用量を超える用量で、且つ腹腔内投与による結果であり、仮に弱い反応性があるとしても、生物学的意義は無視しうる程度のものであると考えられることから陰性と判断、生殖細胞in vivo変異原性試験なし、体細胞in vivo変異原性試験で陰性であることから区分外とした。
発がん性	IARC 77 (2000)で3、EPA (1994)でCに分類されていることから区分外とした。
生殖毒性	環境省リスク評価第2巻 (2003)、IARC 77 (2000)の記述から、ラットの一世代試験で親動物に影響のある用量で胎仔の体重及び体長の低下がみられ、また、ラットの催奇形性試験では胎仔に用量に依存した尿管奇形(拡張、ねじれ)がみられているが、親動物での一般毒性の記載が無いので区分2とした。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復暴露)	データ不足のため、分類できない
吸引性呼吸器有害性	データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	水溶解度(0.0032mg/L(SIDS、2002))までの濃度で急性毒性が報告されていないことから、区分外とした。
水生環境慢性有害性	急速分解性があり(BODによる分解度:71%(既存化学物質安全性点検データ))、かつ生物蓄積性が低い(BCF=27(CERI・NITE有害性評価書(暫定版)、2006))ことから、区分外とした。
生態毒性	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	該当しない
UN No.	該当しない
Marine Pollutant	Not applicable
航空規制情報	該当しない
UN No.	該当しない
国内規制	
陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない
国連番号	該当しない
海洋汚染物質	非該当
航空規制情報	該当しない
国連番号	該当しない
特別安全対策	運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

消防法	第4類 第四石油類
大気汚染防止法	有害大気汚染物質(法第2条第13項、環境庁通知)
海洋汚染防止法	有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項(2)

16. その他の情報

参考文献

国際化学物質安全性カード(ICSC)

15710の化学商品(化学工業日報社)

独立行政法人　製品評価技術基盤機構

The Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH

その他

当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。

現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。

当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。

当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。

国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。

このMSDSは林 純薬工業株式会社の著作物です。

当該物質の日本語によるMSDSと他国言語にて翻訳されたMSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。